建設キャリアアップシステムに期待

一般社団法人　日本空調衛生工事業協会　業務部長　鳥羽　宏

1 はじめに

建設キャリアアップシステム（Construction Career Up System、 略称CCUS）とは、現場で働く技能者の履歴を蓄積し、技能者の能力評価や処遇改善を図り、キャリアパスを明確にして建設業の担い手を確保し、建設産業全体の処遇改善に繋げていく目的で国土交通省と建設業界が一丸となって推し進めているシステムである。一昨年の2019年４月から本格運用を行い、約２年半が経過しており、2023年度には、民間工事を含めすべての工事でCCUSを完全実施することとなっている。

CCUSは、2015年８月６日の「第１回就労履歴管理システム（仮称）の構築に向けた官民コンソーシアム」から始まったが、日本空調衛生工事業協会（以下、「日空衛」という）としては、同年11月４日の「建設技能労働者の経験が蓄積されるシステムの構築に向けた官民コンソーシアム第１回作業グループ」に参加している。

2016年４月19日の「第２回建設キャリアアップシステム（仮称）の構築に向けた官民コンソーシアム」にて「建設キャリアアップシステム」と名称が確定され、この時から日空衛が本格的に参加することとなった。

同年12月21日に「第３回建設キャリアアップシステムの構築に向けた官民コンソーシアム」にて基本計画書・要件定義書・調達仕様書が示され、建設キャリアアップシステムの運営主体を（一財）建設業振興基金として今後のシステム開発や資金の確保などの準備作業に着手するとともに、コンソーシアムを改組し新体制を立ち上げることが決定された。

2017年６月30日に「第１回建設キャリアアップシステム運営協議会総会」が開催され、システム開発運用保守業務の受託者が報告され、2018年４月から本運用が決定された。

2018年３月30日の「第３回建設キャリアアップシステム運営協議会総会」にて2018年４月からの本運用を10月からに変更された。

同年８月10日の「第４回建設キャリアアップシステム運営協議会総会」にて2018年10月からの本運用を10月からは限定運用として2019年４月からの本運用に変更することとなった。

2020年９月８日の「第６回建設キャリアアップシステム運営協議会総会」で、料金改定案と追加開発が決定され、併せて利用促進に関する申し合わせがされた。

日空衛は、建設業振興基金とともに、全国のブロック別CCUS説明会を２年続けて行った。参加者は、2018年３月に約800名、翌年の2019年４月以降は540名であった（2020年はコロナの影響で説明会は開催できず）。

次項よりCCUSの加入状況等の調査の結果を記す。

2 日空衛のCCUS加入状況等調査

この調査は2020年12月時点での、企業会員と団体会員に分けた調査結果を集計したものである。企業会員はほとんどが技術者となるため、技能者のCCUSへの加入状況や事業者登録の状況は、一次協力会社の協力の下で集計した結果となっている。

技能者の登録状況は、協力会社の技能者数191,331人のうち、登録者数78,628人と手続中9,732人で、合計で88,360人となっており、46％が登録している状況である。

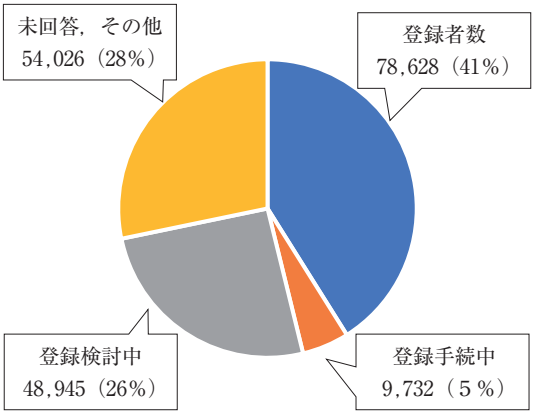

図１　協力会社の技能者191,331人の登録状況

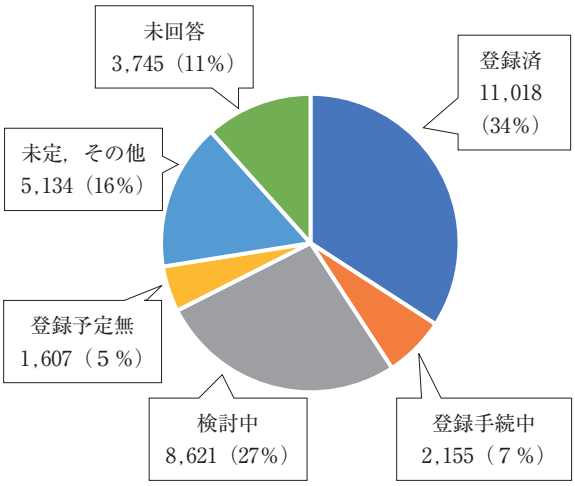

図２　協力会社の32,280社の事業者登録状況

また、事業者登録数は協力会社32,280社のうち、登録済が11,018社で、手続中2,155社と合計すると、13,173社となり41％の事業者が登録している。

日空衛の会員企業の事業者登録については、会員数94社のうち、77社が登録しており、昨年12月時点で82％となっている。

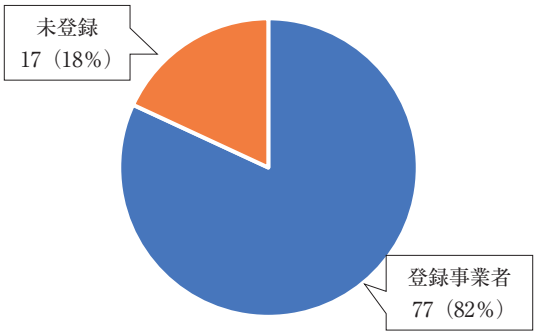

図３　会員の事業者登録状況

技能者・事業者のCCUSへの登録状況とは別に、工事現場におけるカードタッチを進めるために、カードリーダーの設置が必要となる。そのカードリーダーの設置数についても昨年12月時点で調査した結果、日空衛の会員が元請となっている3,103の工事現場では、146の工事現場でカードリーダーが設置されているが、全体の５％程度とまだまだ低い状況となっていた。

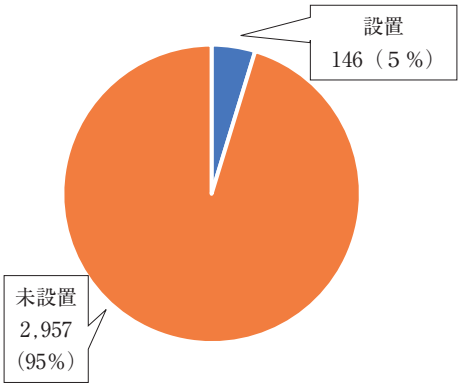

図４　元請現場のカードリーダー設置数

また、日空衛の会員企業が下請となる工事現場でのカードリーダーの設置数は、5,173の工事現

場のうち1,106の工事現場となっていた。これは21％の設置率である。

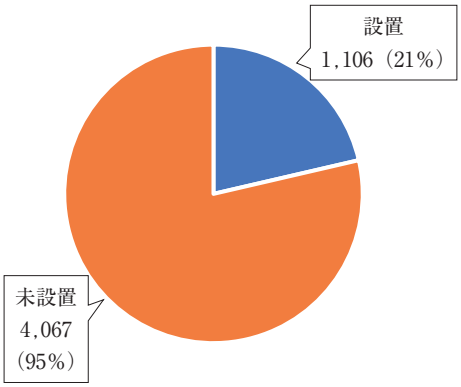

図５　下請現場のカードリーダー設置数

カードリーダーの設置については、令和３年８月19日の建設通信新聞に、「カードリーダー難民続出」との記事が出ている。

「CCUSの技能者登録数が63万人を超え、CCUSカードを保有する建設技能者が増加する中、工事現場にカードリーダーが設置されておらず、カードタッチ（就業履歴の蓄積）ができない「カードリーダー難民」が続出しており、官民連携によるカードリーダーの設置徹底が急がれる。」

また、設備関係の建設技能者では、カードリーダーが設置されていても、カードタッチがエラーとなり、就業履歴の蓄積ができないことがある。これは事前に施工体系図をCCUSに登録しなければならないが、元請の建築業者が入力できておらず、一次下請の設備業者との連携が不十分であることが原因となっている。

3　日空衛の目標設定

建設キャリアアップシステム運営協議会（2020年９月８日）では、今後の技能者・事業者登録数及びカードタッチ数の総数について、運営協議会総会にて2021年度の目標が決定されたが、併せて各団体も目標を設定して推進することの申し合わせがされた。

CCUS運営協議会全体の取組目標（2021年度）

・技能者登録：30万人
（運用開始以降累計80.5万人程度（見込み））
・事業者登録：３万社
（運用開始以降累計10.4万社程度（見込み））
※一人親方除く
・就業履歴登録数：2,000万

これを受けて日空衛は、会員のCCUS加入状況等調査を基に、経営活性化委員会において2021年度の日空衛目標案を検討し、2021年４月の理事会にて目標が決議された。

この目標は実際に達成できる目標として設定し、フォローアップアンケートを実施しながら修正していくが今年度の目標として、以下のように設定した。

日空衛の目標

・技能者登録：会員企業の一次協力会社の技能者数の５割以上の登録を目指す。
・事業者登録：日空衛会員企業の９割の事業者登録を目指す。
・会員企業の一次協力会社の５割の事業者登録数を目指す。
・就業履歴登録数：１億円以上かつ工期半年以上で管理者常駐の元請現場にて、現場数の２割にカードリーダーの設置を目指す。

日空衛の団体会員（都道府県毎の団体）は、日空衛の目標を参考として、各団体の実情に応じて目標を設定することとしている。

また、今年の年末頃に、フォローアップアンケートを実施し、来年度の目標を検討していくことも予定している。

CCUSの2021年８月末時点での状況

2021年８月末時点の到達状況（累計）

・技能者登録数　659,949

・事業者登録数　132,244

・就業履歴数　19,926,506

CCUSが一般に普及されれば、技能者の資格や就業履歴をCCUSで見ることができ、技能者の資格証明も可能となれば、現場に資格者証の写しの提出などの煩雑さが解消され、建退共も自動的にカウントされることになり、技能労働者と建退共制度の元請業者の証紙受払にとっても、大きな利点がある。

4 建設技能者の評価制度

CCUSでは、技能者が持つカードを４段階に分けて、レベル１～４のカードとなっている。レベル１がホワイト、レベル２がブルー、レベル３がシルバー、レベル４がゴールドとそれぞれ色分けされ、各レベルを就業日数と資格で能力評価基準を設けており、誰でも最初はレベル１のカードを取得し、その後に、保有資格と就業日数でレベルアップを行っていく制度となっている。

レベルアップの手続きは、国土交通省の能力評価レベル判定システムにログインして入力したのちに、CCUS本体から評価結果とカードが送られるシステムであったが、レベルアップを行う技能者が極端に少なく、システムの維持費に対して申請料が少なく維持できなくなり、今年の６月16日で停止せざるを得ない状況となっている。

しかし、レベル判定システムに代わるものを用意するまで、各団体にて対応することとなり、未だ対応できていない職種（能力評価実施団体）が多くある状況となっている。

5 CCUSへの期待

CCUSには、建設技能者評価制度とは別に、企業の見える化制度があり、施工能力等の高い専門工事企業が適正に評価され、受注機会の確保や建設技能者の処遇改善や人材への投資が促進され、業界に対する安心感（不良不適格業者の排除）が高まる仕組みづくりへと繋がるものとして整備していくこととなっている。この専門工事企業の見える化と技能者評価制度を合わせてワンストップ化を行っていくこととなっているが、しばらく時間がかかることと思われる。

2023年にすべての工事現場にてCCUSが稼働していければ、そのデータは様々な処遇改善や将来の建設業の大きな進歩に繋がる貴重なデータとなっていくことが予想される。

国土交通省と関係機関や関係団体等がともに建設業界の未来に向けて、CCUSや現在検討中の建築BIM等を進めていくことで、これからの建設業の発展に繋げ、建設業が明るく働きやすい職場となっていくことに期待したい。

そのためにも、建設キャリアアップシステムがすべての工事現場にて一般的に活用されていくことがまずは重要と考えている。

今後の建設キャリアアップシステムに大いに期待していきたい。